NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

尾瀬ネットワーク通信

Vol.26. No.1　2023 年 5 月（第 95 号）

―――――――目　次―――――――

尾瀬への侵入とブルーリスト　・・・1..2
第 20 期通常総会・・・・・・・・・・・2
特別講演・・・・・・・・・・・・・・・・・3..4
群馬側活動（残雪調査）・・・・・・・・・4.6
特別研修-那須三斗小屋温泉・・・・・・・・・6
事務局だより・・・・・・・・・・・7.8

尾瀬への侵入とふくしまブルーリスト

理事長　磯部　義孝

道端や山野で見慣れた植物の中には、外来種と呼ばれる植物が数多くあります。これらの植物（花々）は、時に私たちの心を癒してくれる植物も少なくありません。早春のセイヨウタンポポ、ヒメジョオン（白）、ハルジオン（淡いピンク・淡青色）などは、一口に雑草とは言い切れない馴染みのある種ではないでしょうか。しかし紛れもなく外来種であり厄介ものたちです。

オオハンゴンソウの除去搬出作業（2022/7）

ヒメジョオン、ハルジオンの二種は、福島県の会津や県南では「バンダイグサ」との異名で呼ばれています。この名は 1888（明治 21）年の磐梯山の噴火後に県内各地で見られるようになり、この名が付いたものと思われます。しかしこの二種は観賞用として 1920 年代に北米から輸入、また乾草（家畜のエサ）の輸入時期とも重なっていますが、磐梯山の噴火との因果関係については年代が合致しません。これらを含む外来種は特に適応力が強く、また在来種の成長を妨げるなど農家などにとっては厄介ものです。

【奥山にも外来種】

外来種が在来種の生息地に侵入し生態系を脅かし、今では尾瀬の核心部まで迫ろうとしています。一方すでに核心部まで侵入を許している外来種も確認されています。当会では尾瀬ヶ原、至仏山、笠ヶ岳などで外来種の調査などをすでに実施していますが、年ごとに新たな里の植物も確認されています。温暖化が進み、亜高山帯の気温上昇に合わせるようにこれらの山地侵入が進んでいます。オオバコ、シロツメクサなどは山小屋周辺の足元で、どこでも見られる光景となっています。

【ふくしまブルーリスト】

福島県は 2023 年 3 月福島県外来種リスト（ふくしまブルーリスト）として動植物 641 種を指定、公表しました。「ふくしまブルーリスト」とは、ふくしま生物多様性推進計画に基づき、県内に侵入している外来種すべてをリストにまとめたものです。外来種のうち、すでに生態系の被害が確認されている 101 種を「侵略的外来種」として指定しました。指定種は動物、野鳥、昆虫、淡水魚、維管束以上植物など多数がありますが、今回は尾瀬にかかわる植物を取り上げてみます。

尾瀬地域に侵入を許した外来種としてコカナダ

モ、コウリンタンポポ、オオハンゴンソウ、コテングクワガタなど、研究者によれば 50 種近くにまで広がっているようです。福島県対策優先カテゴリー「重点対策外来種」としてオランダガラシ、オオバコ、エゾノギシギシなど、また侵入の予備軍としてオオブタクサ、オオキンケイギク、セイタカアワダチソウ（いずれも重点対策外来種）などが予想されています。

尾瀬保護財団が中心となり毎年実施しているオオハンゴンソウ除去作業には、当会会員がボランティアとして積極的に参加してきました。場所は新潟側の入山口にあたる小沢平口です。ここに繁茂するオオハンゴンソウ（緊急対策外来種）の除去と除去後には取り残し分の生育状況の確認も行ってきました。数年にわたり除去を続けることにより、根が衰退し淘汰することが確認できました。この地域は昭和 20 年代に桧枝岐村から開拓移住（夏期のみ）集落があり、当時に里から持ち込まれたものと推測されます。

【オランダガラシの二の舞を演じぬように】

外来種の侵入および繁殖とは、在来種にとってはその生態系の破壊と同義語です。今後も外来種の侵入を阻止していかねばなりません（早期発見と初期防除の重視）。オランダガラシやコカナダモの例を出すまでもなく、監視の目を怠ると瞬く間に拡散してしまうという経験知を生かして欲しいものです。また尾瀬の奥深くまで侵入を許してしまった外来種対策も早期に検討、実践をしなければなりません。これには膨大なコストと時間かかりますが、尾瀬の生きものの生態系を守るも、壊すのも、われわれ人間です。

◎尾瀬自然保護ネットワーク

第 20 期通常総会　報告

1. 日時　2023 年 4 月 23 日（日）
   13：10～15：25 分
2. 開催地　大宮ソニックシティ 901 号会議室
   さいたま市大宮区桜木町 1-7-5 ソニックシティビル
3. 正会員数　95 名　出席者 20 名
   （表決委任者 58 名）
   出席者　（敬称略/五十音順）

飯沼、磯野、磯部、伊藤（佳）、牛木、大庭、大山、小鮒、坂本、佐久間、椎名、庄司、須賀、鈴木、田中、初谷、西山、前田、若松、渡邊

4. 審議事項
   第 1 号議案/2022 年度活動報告　承認の件
   第 2 号議案/2022 年度会計報告　承認の件
   第 3 号議案/2023 年度事業計画（案）承認の件
   第 4 号議案/（新）周年記念事業企画積み立基金規約（案）承認の件
   第 5 号議案/2023 年度　収支予算（案）承認の件
5. 議長は磯部義孝が選任され、第 1 号議案から第 5 号議案の案件を審議した。なお議事進行役として副理事長初谷博が補佐をした。
6. 議事録署名人は、若松　真、　牛木一朗の 2 名が選任される。
7. ・第 1 号議案は初谷副理事長が、各担当理事から提出された活動報告の要旨を読み上げ、議場に諮ったところ承認をされた。出席者から受けた質問に対しては、担当理事による詳細な説明が行われた。
   ・第 2 号議案は会計担当伊藤佳美理事により、活動計算書の読み上げによる収支会計報告を行った。続いて会計監査報告は、監事渡邊文子により監査報告書の読み上げが行われ、全会一致で第 2 号議案は承認された。
   ・第 3 号議案は、2023 年度の事業計画（案）および活動計画（案）が、各担当理事より提案説明がなされ議場に諮った。出席者からの質問に対しては、担当理事による詳細な説明が行われた。議場に諮り第 3 号議案は承認された。
   ・第 4 号議案は、（新）周年記念事業企画積立基金規約（案）である。旧記念事業積立金は、期初の目的で前年度に終了したため、同様の主旨で新たな積立を行う内規である。磯部議長より詳細な説明のもと、承認された。
   ・第 5 号議案は 2023 年度収支予算（案）であ

る。議長より数字を伴う説明があり承認された。議長は審議議案のすべてが承認された旨を述べ、副理事長大山昌克が閉会宣言を行った。

◎特別講演

「尾瀬国立公園利用アクションプラン」（素案）を考える

尾瀬国立公園協議会委員
公益財団法人 日本自然保護協会参与
横山　隆一氏

尾瀬国立公園協議会（利用 AP 小委員会）で議論を重ねている「利用アクションプラン」（以下、利用 AP）について横山隆一氏より、小委員会で提案されている具体的な企画（案）などを含めたお話しを聞く機会がありました。

【利用 AP 小委員会の構成委員】

委員長は環境省関東地方環境事務所の国立公園課長。行政、観光協会、山小屋組合、東京電力、ガイド協会、尾瀬保護財団などが構成員であり、委員の全員があて職。

【新ビジョンに見る尾瀬のめざす姿】

① 生き物の視点
② 利用者の視点
③ 地域の視点

【利用アクションプラン】

利用アクションプランとは『新・尾瀬ビジョン』が掲げる「尾瀬がめざす姿」の実現に向け、尾瀬を利用面から寄与する計画であり、具体的なアクション(事業)を、達成目標を明示した上で示したものです。

2021 年から、環境省の委託を受けた JTBF(公益財団法人日本交通公社)が事務局となって作り始め 、2022 年 1 月から開催されている「利用 AP（アクションプラン）小委員会」と共に、文書化が進められています。現在は「素案」であり、環境省尾瀬国立公園 HP に全文登録（2023 年 1 月）。なお最終策定は、2024 年 3 月となっています。

【利用 AP 小委員会からの利用企画（案）提出】

① 魅力向上プログラムより
（滞在空間の上質化）.鳩待峠の施設改築における外観整備
② 滞在・周遊促進プログラムより
（桧枝岐村）福島県桧枝岐と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道である街道（会津沼田街道）の魅力を発信し少しでも尾瀬の滞在者を増加させるとともに、村内宿泊施設利用者を増加させることを目的とする。
③ 魅力的プロモーション実施プログラムより
（片品村観光協会）訪日外国人旅行者誘客による地域経済の活性化を図るため 1.台湾 JTB とタイアップした広告、2.海外インフルエンサー（ユーチューバーなど）3.外国人アドバイザー招聘、台湾世界旅行博出展など取り組みを進める。
（尾瀬小屋）グルメを通じた国立公園の魅力発信
④ 脱炭素・循環型公園プログラムより
（東京電力ホールディング（株）、東京パワーテクノロジー（株）環境事業部尾瀬林業事務所）計画策定は、片品村むらづくり観光課と東京電力ホールディングス（株）ESG 推進室の共同事務局により実施予定。
①【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED 導入、鳩待山荘建替工事開始（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを加速②【村内の脱炭素化、再エネ導入】尾瀬片品小水力発電所の運転開始、移住定住促進住宅基本計画策定

利用 AP の戦略

◎尾瀬の利用者を 3 つ（ビギナー、リピーター、ファン）に分け、各利用者層の充実を図る。

利用者層	尾瀬利用回数	戦略
ビギナー	1 回	尾瀬を認知し、実際に訪問してくれる人を増やす
リピーター	2 回以上	尾瀬ビギナーを再訪につなげる
ファン	守る活動への参加	尾瀬を想う人を増やし、尾瀬の守り手に巻き込む

【尾瀬国立公園協議会委員の構成】

今の尾瀬国立公園協議会は、関係機関・団体・個人など 32 もの構成員であり、8 割があて職。また、公園行政と観光業に係る団体が 8 割。自然保護に係る市民団体は 4 つである。

【尾瀬の利用実態】

① 入山者数

国立公園全体では、コロナ前より入園者数は微増が続くものの、尾瀬国立公園の場合は徐々に減少しつつ、また外国人観光客数は、1000 人程度。(2022 年はコロナ前の 67%まで回復)

② 月別入山者数

コロナ前までは、入山者の多い月(混雑月)は、6 月(ミズバショウ)、7 月(ニッコウキスゲ)、9 月下旬～10 月上旬(紅葉)の時期となっていたが、2022 年(16 万 3000 人)は年間通じてフラットな状態であった。

③ 山小屋宿泊者数は、入山者 16 万人に対して約 4 万人の宿泊者数(コロナ前 6 万人前後)

【最後に】

「入山者数が大幅に減少することで、地域が担ってきた利用施設の維持管理が困難となり、近い将来、尾瀬全体の管理水準が著しく低下し、国立公園としての適正な利用環境を利用者に提供できなくなる。」ということを、市民としてどう考えるかが、焦点の一つである。また環境省および協議会のガバナンスのあり方が問われている。

なお、「利用 AP 小委員会」は作られ、企画案が提出されるものの、生きものの視点から「保護 AP 小委員会」はないそうである。　(文責/大山)

横山隆一氏(パワーポイント配布資料より)

◎(2023 年)第一回

群馬側活動報告

群馬側担当理事　小鮒　守
群馬側担当理事　須賀邦雄

残雪期調査は 4 月 28 日(金)～30 日(日)に実施しました。

今年は 4 月 21 日に鳩待峠の道路が開通し、5 月 6 日まで至仏山への入山が許可されます。また 5 月 7 日以降 6 月 30 日までは、植生保護のため入山禁止の措置となります。この機会を利用し残雪調査を行いました。この時期の至仏山は、春スキー、バックカントリー、スノーボーダーで賑わっていました。

鳩待峠では、うず高く積まれた除雪の山が毎年見られましたが、今年はほとんど見られません。

残雪「ゼロ」の鳩待峠(標高/1590m)　前年残雪 80cm

4/29 日夜半より荒天の予報が発令されたため、29 日中に、前倒しで至仏山および尾瀬ヶ原の残雪調査を実施しました。至仏山の調査地点は 3 か所の定点です。

第一の調査地点(標高 1702m)を目指し 8 時活動開始。快晴、気温も 5 度前後と、この時期としては穏やかな日ではありますが、久しぶりの山行きで第一目的地までの標高差 112m が、実に遠く感じられました。8 時 40 分に到着。残雪は 55cm でした。

標高 1702m（残雪 55cm/前年 170cm）

次の調査定点は 1871m（標高差 281m）のダケカンバの大木を目指します。いくつかのピークを越え汗だくで到着。この地点まで登ると尾瀬ヶ原や燧ケ岳が木々の間から見られるようになります。

標高/1781m（残雪 80cm /前年 224cm）

次に目指すは小至仏山直下(2079m)であり、標高差 489m 地点は、本日の最大のピークを越えであり悪沢の分岐から約 300m です。この地点あたりから風が強く、防寒着を着ての登山となりました。この周辺は群馬、新潟、栃木の山々を 360 度楽しめる最高のビュースポットでもあり参加者全員感激してしまいました。

残雪は 165cm であり、昨年より 1 m多く、季節風の方向性の変化による影響と思われます。

小至仏山調査地点（標高/2079m）

11 時下山開始。鳩待峠で昼食を摂り山の鼻へ移動しました。途中テンマ沢では、雪解けが進みミズバショウが芽吹いていました。

山の鼻ビジターセンター（閉館中）

冬道は融雪が進み、今は使えない木道が所々に現れています。踏み抜きに注意しながら「山の鼻小屋」へ 14 時 5 分到着。予報では明日から天候悪化とされるため、本日中に尾瀬ヶ原まで足を延ばし計測実施を行いました。尾瀬ヶ原の調査地点 6 か所は融雪が進み、大半が水没しており、計測地

点に入れない状態でした。計測器を用いた実測は研究見本園含め 2 ヶ所であり、他は残雪ゼロでした。融雪のスピードの速さには驚かされる温暖化の 2023 年です。

尾瀬ロッジ付近	研究見本園

また野鳥の基礎調査はイワツバメ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ヒガラ、ハシブトカラス・アカゲラ、オオジシギ（2 羽）などを確認しました。（残念なことですが、参加会員により戸倉でガビチョウ（侵略的外来種）の撮影もできました）

残雪調査、野鳥の基礎調査を実施しながら、山開き前の尾瀬を十分に味わうことができました。参加された皆様、大変お疲れさまでした。

参加者（7 名）

小鮒、大山、須賀、高谷、伊藤（佳）、結城、高橋

【単位：cm】

No	尾瀬ヶ原　計測定点 Spot	2022	2023
1	尾瀬ロッジ前の木道付近（曲がったダケカンバ）	164	3
2	原の川上川を渡り、南東側（右側）の疎林帯	160	0
3	高架木道上（川上橋渡り約 50m）	130	0
4	上田代の木道右側「迂回路」ベンチ付近	107	0
5	逆さ燧ケ岳ベンチ付近	110	0
6	研究見本園　最初のベンチ周辺	85	30

アカゲラの歓迎を受ける

・特別研修（２０２３）のご案内

『那須　三斗小屋温泉へ』

那須連峰/茶臼岳〔1915m〕朝日岳〔1896m〕

◎2023 年 9/9（土）～10（日）

那須連峰は、栃木県北部からと福島県にかけて南北に連なる山並みで、那須火山帯の南端に位置します。約 60 万年前から火山活動が始まりました。

最高峰は三本槍岳。茶臼岳は山頂西側から蒸気と火山ガスを噴出しており、一帯を無間地獄といいます。

三斗小屋温泉（現在は二軒のみ）は茶臼岳の北西にあり、かつての会津中街道が近くを通り、付近は戊辰戦争時の古戦場でした。

一日目/峰の茶屋～茶臼岳～三斗小屋　（約 8 Km）	**二日目**/三斗小屋～隠居倉～朝日岳～峰の茶屋～駐車場　（約 5 Km）
新幹線　『新白河駅』 集合/出発（8 時 20 分） 6:40　東京駅発新幹線 <やまびこ２０３> 8:08　新白河駅着 8:20　新白河駅発 （自家用車） 9:50　那須　県営駐車場着 10:00　駐車場発（徒歩） 10:50 峰の茶屋… 11:45 茶臼岳…牛ヶ首〔無間地獄往復〕姥ケ原 …15:30 三斗小屋　（予定/大黒屋泊）	7:00 宿舎発……8:00 隠居倉……熊見曽根分 9:00 朝日岳…9:35 峰の茶屋…10:15 駐車場 （自家用車で新白河へ） 12:00 新白河駅　解散
〇宿舎　三斗小屋温泉 「**大黒屋**」栃木県那須郡奥那須三斗小屋温泉	０９０－１０４５－４９３３ ０２８７－７４－２３０９

経費 14000 円前後

申し込みは　8 月 26 日（土）まで

本部事務局へ。

事務局だより

◎今後の活動日程

月	日程		主な企画（案）
5月	20（土）～22（月）	群	環境調査（尾瀬ヶ原）
6月	2（金）～3（土）	群	環境調査（尾瀬ヶ原）
	3（土）	福	特別活動
	3（土）～4（日）		2023「尾瀬アカデミー」夏期
	10（土）～11（日）	福	福-活動-第２回 オサバグサ調査（帝釈山）
	6/30（金）7/1（土）	群	環境調査（尾瀬ヶ原）
7月	8（土）～9（日）	福	福-活動-第３回
	28（金）～29（土）	群	環境調査（尾瀬ヶ原）
	29（土）	福	特別活動
8月	11（金）	福	福-賛助会員の日 活動-第４回
	11（金）～12（土）	群	賛助会員の日 高山植物調査
	20（日）	福	特別活動

※ご参加される際は必ず担当理事と情報交換や連絡を取りあってください。野外活動ですので、天候により中止や順延などの措置もあります。

・福島側
佐久間理事 090-7665-6327
刀　　理事 090-2733-7911

・群馬側
小鮒理事　090-8855-2609
須賀理事　080-5009-3519

◎2023 尾瀬の積雪、融雪状況

尾瀬沼

尾瀬沼	最大積雪深	最深積雪日	消雪日
2011年	274	3月18日	5月26日
2012年	270	3月13日	5月26日
2013年	267	2月25日	5月22日
2014年	280	3月12日	5月21日
2015年	344	2月15日	5月21日
2016年	172	2月10日	4月28日
2017年	287	3月27日	5月24日
2018年	252	1月28日	5月22日
2019年	266	4月3日	5月23日
2020年	176	3月24日	5月18日
2021年	277	2月19日	5月21日
2022年	305	2月24日	5月30日
2023年	193	1月6日	5月9日
AV	**259**	**2月28日**	**5月20日**

鳩待峠

鳩待峠	最大積雪深	最深積雪日	消雪日
2011	211	3月18日	5月10日
2012	235	3月5日	5月8日
2013	258	2月25日	5月15日
2014	271	3月10日	5月14日
2015	286	3月1日	5月10日
2016	159	2月10日	4月20日
2017	297	3月28日	5月16日
2018	203	2月18日	4月28日
2019	欠測	欠測	5月19日
2020	167	3月6日	5月10日
2021	207	2月24日	5月6日
2022	258	2月18日	5月12日
2023	212	2月27日	4月23日
AV	**230**	**3月1日**	**5月7日**

早い尾瀬の融雪

2021 年 4 月下旬　　尾瀬ヶ原は雪で隠されている

2023 年 4 月下旬　　尾瀬ヶ原に雪が見えない

編集後記

●尾瀬はいよいよ花盛りの季節を迎える。また（新）尾瀬ビジョンに基づき、尾瀬の「利用アクションプラン（案）」も花盛りである。三階建ての山小屋建設、山小屋でグルメ料理、外国人観光客誘致のために外国人アドバイザー招聘など、企業も行政も前のめりに力が入る。（案）といっても既に実施しているところを見ると自由に何でもありのようにも見える。また「保護」のためのアクションプランは、無いとの事。

尾瀬にある二つの百名山にトイレブースは未だ設置せず、また環境基準の 24 倍以上の「大腸菌群」が検出された尾瀬沼。第 4 次尾瀬学術調査報告には、外来種対策が強く求められているにも関わらず目立った動きは見えない。荒廃している至仏山登山道はそのまま。受け入れ態勢は、これでよろしいのか。

「生きものの視点」は、どこへ行ったのか。優先順位は、生きものたちの生活環境の保全。これを軸足として考えられないものなのか。尾瀬の主役は生きものたちであり、生きものがいなくなったら、もう尾瀬ではなくなる。　　（大山）

◎尾瀬の生物季節

にぎやかになる尾瀬

平均的な日付	動物
5/8	ウグイス（初鳴き）
5/16	カッコウ（初鳴き）
6/4	モリアオガエル（産卵）
6/11	エゾハルゼミ（初鳴き）

色鮮やかになる尾瀬

平均的な日付	植物
5/16	ミズバショウ（開花）
5/29	チシマザクラ（開花）
6/28	カキツバタ　（開花）
6/28	オゼコウホネ（開花）

（尾瀬の自然保護第 44 号より）

NPO 法人
尾瀬自然保護ネットワーク
Vol.26.　No.1　　2023 年 5 月 20 日
発行人　：磯部　義孝
編集担当：大山　昌克
Web 担当：鈴木　誠一

■本部事務所（事務局）
〒969-0402 福島県須賀川市仁井田字大谷地 378-1　　info@oze-net.com
電話/0248-76-1365　　Fax/0248-72-5865
＜電話番号が変更になっています＞
■群馬支部
〒371-0846 前橋市元総社町 2－21－12 小鮒方
電話/027-251-1089
http://www.oze-net.com/